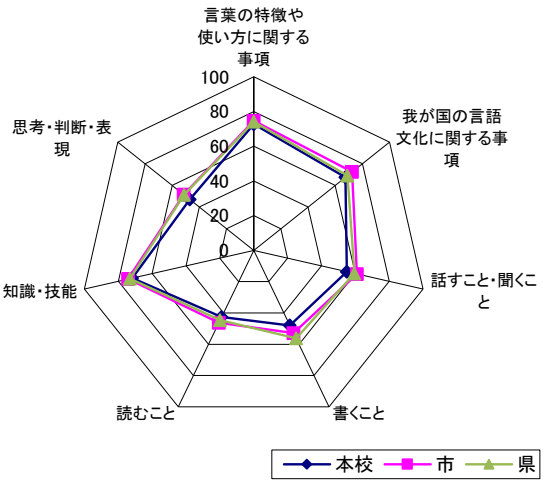


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.7	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	67.6	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	55.0	60.9	59.5
	書くこと	48.0	52.8	56.2
	読むこと	42.6	46.2	44.5
観点	知識・技能	71.7	74.2	73.1
	思考・判断・表現	47.0	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

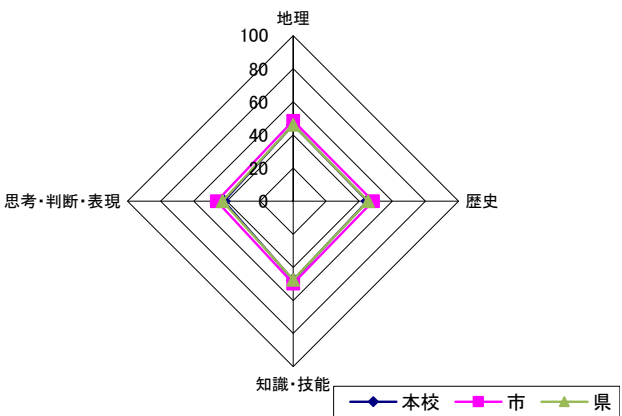
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○第1学年までに学習した漢字の読み取り問題では、正答率が80ポイントを上回っている。 ○敬語の働きについての問題では、市や県の正答率をやや上回っている。	・授業中に辞書の活用を意識して行い、意味を確かめさせるとともに、短文を書かせるなどして漢字や語句についての知識を広げさせる。また、漢字のドリル学習および小テストに継続的に取り組ませ、正確に漢字を読み書きできる力を育てたい。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く問題では、無回答率が市や県の平均、県の平均を下回っている。 ●しかし、正答率は、県の平均と同じであるものの、市の平均を4.2ポイント下回っている。 ●行書の点画の変化に関する問題では、無回答率は0%であったが、正答率は市や県の平均を下回っている。	・歴史的仮名遣いに慣れさせ、正しく読む力を育てるために、何度も繰り返し音読したり、冒頭部分を暗唱したりする時間を多く設定する。 ・毛筆や硬筆の授業の際には、手本の文字の形を真似るだけでなく、点画の連続や変化などの行書の特徴を十分に意識して練習に取り組ませたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○話し手の話し方としての適するものを選ぶ問題では、正答率が60%を超えていて無回答率は0%だった。 ●条件に従って話し合いの結論を書く問題では、無回答率が21.8ポイントと、条件を満たしていない回答が多かった。	・目的や条件に合わせて効果的に話す力を養うため、スピーチや討論など多様な音声言語の学習を取り入れる。また、観点を明示した聞き取りメモを用意し、話の内容や表現の仕方を判断・評価する練習をさせる。 ・普段の授業の中でも、表現の仕方や敬語の使い方などのポイントを示し、場の状況や相手の様子に応じた効果的な話し方について意識させる。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●全体の3割にあたる生徒が無回答だった。自分の考えは書けているが、資料の活用をしながらの回答に難色があった。	・物語のあらましや登場人物の心情をまとめるなど、授業の中で短文を書く機会を増やし、文章を書くことに慣れさせたい。 ・自分の考えや感じたことを文章にする場を普段の授業から多く取り入れるようにする。さらに、そこで自分の書いた文章や相手の文章を推敲させることで、書くことの基礎を身につけさせる。
読むこと	平均正答率は、市の平均より下回っている。 ○文章の内容について叙述をmにとらえることができるかどうかの問題では、市の平均を上回った。 ●場面の展開や心情の変化について描写を基に捉えることができるかどうかの問題では、市の平均をやや下回った。	・文学的文章の学習では、登場人物の心情に立って考えさせる場面を多く設定したり、心情を読み解く手がかりを示しながら指導していきたい。また、説明的文章の学習では、筆者の意見を的確に捉えることができるよう、語句の意味を正しく理解したうえで論の進め方について意識させるとともに、話し合いから考えを深められるような授業を展開する。さらに、そこから自分の考えを書いたり、伝え合ったりする練習をさせる。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	46.2	48.6	46.2
	歴史	45.0	48.3	45.3
観点	知識・技能	47.8	49.8	47.5
	思考・判断・表現	41.8	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

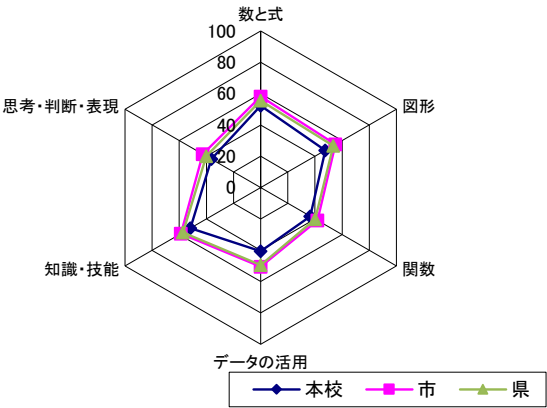
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率は市の平均より2.4ポイント低い。</p> <p>○周辺国との領土をめぐる問題を抱えている島々の位置と問題の背景について理解しているかの選択肢の問題は県の平均よりより4.4ポイント、市の平均より1.1ポイント高い。</p> <p>○資料から原油の国際価格の変化の特徴を記述式で書く問題は、県の平均より10.1ポイント、市の平均より5.3ポイント高い。</p> <p>●東京とサンフランシスコとの時差について理解しているかの選択肢の問題について県の平均より5.8ポイント、市の平均より7.1ポイント低い。</p> <p>●世界の主な宗教の習慣や分布の特徴について理解しているかを見る選択問題は、県の平均より4.7ポイント、市の平均より7.3ポイント低い。</p>	<p>・時差の問題では計算問題が絡んでくるため、算数が苦手な生徒は苦手な単元である。しかし、海外とのかかわりが深まっている現在、生活に必要な不可欠なものとして自分とのかかわりを意識させながら学習を進めていく。また、同時刻帯のライブ映像等を見せたり、ITを活用しながら生徒の興味関心をさらに高めていく授業を展開していく。</p> <p>・資料の読み取り表現については少しずつ力がついてきているが、引き続き授業の中で取り入れ、繰り返し行うことによって資料からの読み取りから気づく楽しさを実感させ、対話により多面的な思考をさらに身に付けさせる。</p>
歴史	<p>平均正答率は市の平均より3.3ポイント低い。</p> <p>○中大兄皇子が行った事業と関連する場所を示す資料について判断しているかどうかを見る選択式の問題では、県の平均より6.0ポイント、市の平均より1.9ポイント高い。</p> <p>○律令制の変化する中で出された法令について理解しているかどうかを見る短答式の問題では、県の平均より4.5ポイント、市の平均より0.7ポイント高い。</p> <p>●日本の遺跡からの出土品について理解しているかどうかを見る選択式の問題では県の平均より10.2ポイント、市の平均より11.9ポイント低い。</p> <p>●複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、摂関政治が衰えた理由について表現塩ているかどうかを見る記述式の問題では県の平均より6.1ポイント、市の平均より14.7ポイント低い。</p>	<p>・縄文から古墳時代にかけての学習内容を忘れてしまっている生徒が多い。よって、AIDリルを使って復習する時間を設けたり、授業の中で復習する時間を設けたりするなどし、学習内容理解の定着を図っていく。</p> <p>・思考・判断・表現の力をさらに高めていくため、資料活用を授業の中で進めていく。特に複数の資料のからの読み取りを強化するため、教材研究の中で複数の資料を用意し、読み取りを行い、意見の発表等を重ねることにより苦手とする生徒の支援とともに、学び合いにより学力の底上げを図っていく。</p>

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	52.3	58.2	55.5
	図形	47.6	55.1	53.5
	関数	36.6	41.9	40.2
	データの活用	40.6	50.5	49.4
観点	知識・技能	51.8	58.8	57.3
	思考・判断・表現	36.3	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

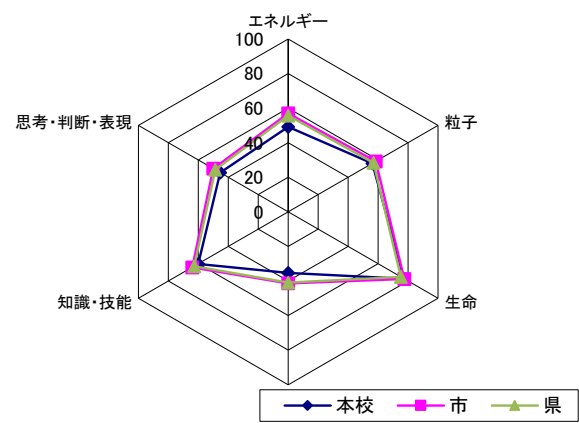
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、県の平均より低い。他の領域よりも差が小さい。 ○与えられた正の数と負の数から、答えを求める問題では県の平均を上回っている。 ●四則の混じった計算や解き方を間違えている人物を選び、理由を説明する問題は県の平均との差が大きい。	・2～3割の生徒は正負の数、1次方程式の計算につまづきがある。このことから、計算分野の授業を行う際に前学年に戻って復習を行いつつ授業を進める必要がある。 ・文章が長い問題や自分で説明する問題については、授業中に考えを伝える機会を増やし、様々な考えに触れる機会を増やす。
図形	平均正答率は、県の平均より低い。 ○回転移動したときの回転の中心を答える問題は県の平均を上回っている。 ●ねじれの位置を答える問題、垂線の作図をする問題、おうぎ形の弧の長さの理解を問う問題は県の平均との差が大きい。	・高さが垂線で書けることや円とおうぎ形の関係について教えていく中で印象に残るよう、デジタル教科書などで捉える機会を増やす。 ・体積や側面積を求める問題では、求めるだけで終わるのではなく、式の意味をとらえられるようにする。
関数	平均正答率は、県の平均より低い。 ●与えられたグラフから答えを求めたり、グラフが何を意味しているかの項目が特に低い。	・式と表とグラフの関連性を意識した授業を行う。 ・利用の問題を、身の回りの問題と関連付けながら、丁寧に扱い定着を図る。
データの活用	平均正答率は、県の平均より低い。 ●ある階級までの累積度数が大きいヒストグラムを選び、その累積度数を求める問題が特に低い。	・まずは基本となる用語を定着させる必要がある。 ・身の回りのデータと関連付けながら、生徒が主体となってデータを扱う活動を取り入れる。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	49.2	57.0	55.7
	粒子	56.2	58.6	56.9
	生命	77.3	77.5	75.2
	地球	35.2	41.4	40.9
観点	知識・技能	60.1	64.1	62.8
	思考・判断・表現	45.5	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

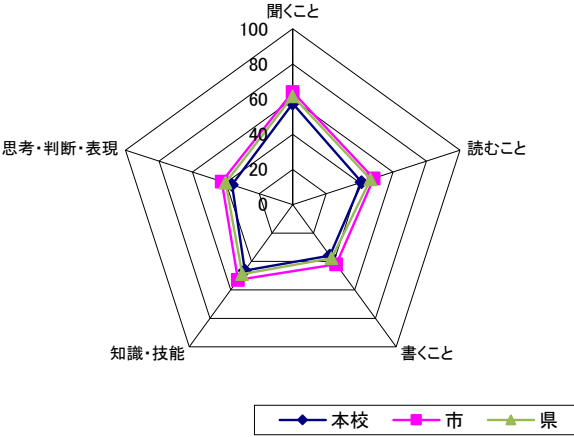
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は市平均より低い。 ○ばねに加わる力の大きさとばねの伸びが比例することは理解できている。 ●音の伝わり方や速さの理解と活用に課題が見られる。 ●ばねに加わる力の大きさとばねののびの関係についての実験結果からその考察を導く力に課題が見られる。 ●反射する光の進む道筋の作図に課題が見られる。	・図を用いて現象を可視化し、理解を図れるようにする。 ・一人一人が自分で作図をする活動を充実させる。 ・演習問題や復習に取り組む時間を設け、基礎・基本の充実を図るとともに、活用力の向上にもつなげる。
粒子	平均正答率は市平均より低いが、県平均と同程度。 ○実験を安全に行うための行動や、気体の集め方など、実験技能についての知識は正答率が高く、理解できていることが分かる。 ●溶解度の変化と再結晶の様子がどのように関係しているのかについての理解に課題が見られる。	・生徒が予想や考察で、思考する活動を充実させる。キーワードの提示や、ポイントとなる事象現象を強調することなどで、思考する活動への苦手感を軽減させ、思考の言語化を習慣化させていく。 ・演習問題や復習に取り組む時間を設け、基礎・基本の充実を図るとともに、活用力の向上にもつなげる。
生命	平均正答率は市平均と同程度であり、県平均より高い。 ○植物や動物の分類に関して県平均より正答率が高い。分類の着眼点について理解できていることが分かる。 ●具体的に動植物を分類することに若干の課題が見られる。	・覚えたものを、活用できるように身のまわりの事物現象をとりあげ、考えさせる時間を設定する。 ・演習問題や復習に取り組む時間を設け、基礎・基本の充実を図るとともに、活用力の向上にもつなげる。
地球	平均正答率は市平均より低い。 ○火山や地層に比べて、地震については揺れや震度についての正答率が高い。 ●火成岩・堆積岩についての理解や分類について課題が見られる。 ●地層のつながりについての理解と活用力に課題が見られる。	・グラフの作成や資料の読み取りについて、演習問題を活用し、理解を深めるようにする。 ・音の速さやフックの法則、地震の伝わる速さなど、計算が関係してくる問題についても演習問題を活用し、理解を深めるようにする。 ・岩石の分類については、成り立ちとの関連性に注目しながら理解を深めるようにする。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	57.5	64.0	61.6
	読むこと	41.2	48.4	46.6
	書くこと	35.9	42.0	37.8
観点	知識・技能	46.4	52.9	48.9
	思考・判断・表現	36.3	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、市の平均に比べて6.5ポイント低い。 ○絵を適切に表している英文を選ぶ問題では、平均正答率が85.3%と高かった。リスニングの概要を捉えるという問題において、ほとんどの生徒が慣れているものと考えられる。 ●英文を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを簡潔に答える問題では、正答率が20.6%と低かった。いくつかの情報から自分の考えをまとめ、書くという練習が行えていないことが原因と考えられる。	・今後も普段の授業の中に可能な限り、まとまった量の英語を聞き取らせる指導を組み入れていきたい。ALTとのチームティーチングがその最たるものであるが、学年に応じてALTの説明や指示の日本語での補足を減らして、生徒たち自身の力で推測させるように心がけたい。 また、教科書の内容をデジタル教科書等で導入する際、会話や物語の内容を追わせる上で、あまり詳細にこだわらずに話の流れをつかませ、あらすじを書かせたり、特にポイントとなる質問に答えさせるなどの活動を増やしていきたい。
読むこと	平均正答率は、市の平均に比べて7.2ポイント低い。 ●英文から必要な情報を読み取り、適切なイベントを選ぶ問題では、正答率が34.8%と低かった。複数の情報を読み取って答えを出したり、細かい内容まで理解することはできていないと考えられる。	・教科書の読み物教材を扱うときには、最初に大雑把に読んでから○×テストを行うなどの工夫をしたり、人称代名詞や不定代名詞や指示語が何をさしているかななどの問題を出すなど、読み取り方にメリハリをつけさせたい。 また、実際に役割を演じながら読みの練習をさせることにより、自然に会話の流れがつかめるようにさせたい。電話、メール、道案内、買い物等、教科書の進度にあわせて様々な場面で全員にペアワークをさせていきたい。
書くこと	平均正答率は、市の平均に比べて6.1ポイント低い。 ●対話の流れに合った英文を書く問題では、平均正答率が15.2%と低かった。1年次で学習した疑問詞の用法やbe動詞の時制が確実に定着していないと考えられる。 ●外国の生徒の依頼に対して、自分の学校について紹介する問題では、平均正答率が19.6%と低かった。自分の考えを整理して、まとまりのある文を書く練習が圧倒的に足りないと考えられる。	・過去に学習した単語、熟語、慣用表現、基本文を復習するために、家庭学習の課題として書き取りの宿題を課すなど、授業では確保しにくい「英語を書いて練習する活動」に取り組ませたい。 作文に関しては、授業での基本文定着活動(ペアで矢継ぎ早にキーセンテンスをインプットする活動)や、自己表現英作文(その授業の基本文をテーマとする表現)に力を入れていきたい。その際、基本となる文に加えて、さらに2・3文の自己表現が続けられるように促していきたい。



## 宇都宮市立陽南中学校 第2学年 生徒質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習においては、「家で、学校の宿題をしている。」の肯定的回答が91.8%(県91.7%)、「学校の宿題は、自分のためになっている。」の肯定的回答が93.3%(県90.9)、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定的回答が91.1%(県88.4%)といずれも県の平均を上回っている。「家の人と学習について話をしている。」の肯定的回答が82.2%で県の平均よりも4.2%上回っていることから、日頃から学習面において、協力的な家庭が多いことがわかる。学校質問調査の「やり方を生徒に十分説明して、宿題を出している。」の肯定的回答割合の高さと合致している。

●「毎日、朝食を食べている。」の肯定的回答が90%に対して、「食べていない。」回答が6.3%、「早寝、早起きを心がけている。」の肯定的回答が70.2%に対して、「心がけていない。」の回答が11.5%、「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画を見たり、聞いたりしますか。」の4時間以上の回答が25.0%と県の平均よりも8.9%も上回っていることより、生活習慣に家庭の差が大きい。

○学校での学習については、「先生は学習のことについてほめてくれる。」の肯定的回答が84.6%(県平均の2.2%上)「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」の肯定的回答が81.8%(県平均の10.3%上)から、質問しやすい学級作りや、自己肯定感を高める声かけなど学級・教科担任の指導の工夫が見られる。「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」の肯定期回答が94.1%(県平均の1.0%上)、「自分には良いところがあると思う。」の肯定的回答が81.3%(県平均の2.4%上)から、授業中や学校生活を通して生徒と教師の信頼関係が良好に成り立っていることがわかる。

○●「各教科の授業の内容はよく分かる。」の肯定的回答が、5教科において80%前後であるのに対して、「各教科の学習は好き。」の肯定的回答は60%～70%であった。「各教科の学習は、将来のために大切な。」の肯定的回答が80%～90%の教科(国、数、英、保体、技家、道徳、総合、学活)が多いので、将来を見据えた、実践的で興味関心をもたせる指導の工夫をしていく。

○「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の肯定的回答が90.4%(県平均より9%上)、「授業で扱うノートには学習の目標とまとめを書いている。」の肯定的回答が94.7%(県平均より4.4%上)。学校質問紙の「「ねらい」「指導」「評価」のつながりを意識した授業づくりを行っている。」の肯定的回答の高さからも伺える。今後も継続した指導を続け授業力向上に励んでいく。

## 宇都宮市立陽南中学校(第2学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・生徒の学ぶ意欲の育成や基礎・基本的な習得に努める。 ・家庭学習の充実。 ・系統性のある継続したキャリア教育の取り組みに努める。	・学業指導の理念・宇都宮モデルを踏まえる。 ・タブレット端末を活用しながら生徒一人一人の家庭学習の定着を図るとともに、AIドリルの積極的な運用に努める。 ・「宮・未来キャリアパスポート」の活用。	・「難しい問題にであうと、よりやる気がある。」の肯定的回答が33.1%で県平均より5.4%下回っている。 ・「平日の家庭での学習時間が2時間以上」の回答が24.1%で、県平均の 0.1%上回っている。 ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする。」の肯定的回答が80.3%で県平均より6.9%下回っている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・家庭学習を充実させるため、家庭でのタブレット使用を促す。 ・学んだことを生かして自分の考えを伝え合う活動を行う。 ・課題に対して考え、思考を深める活動の工夫をする。	・家庭学習でAIドリルの活用や調べ学習を行う。 ・授業を見直し、自分の考えを伝えたり、振り返りでまとめたりする活動を行う。 ・授業の中で、課題に対して自ら考える目的・場面・状況を設定する。	・AIドリルの活用。自主学習ノートの活用。 ・タブレット活用(ジャムボード等)により、意見交換の機会を増やす。 ・対話から学びが深まる授業形態の工夫を行う。